

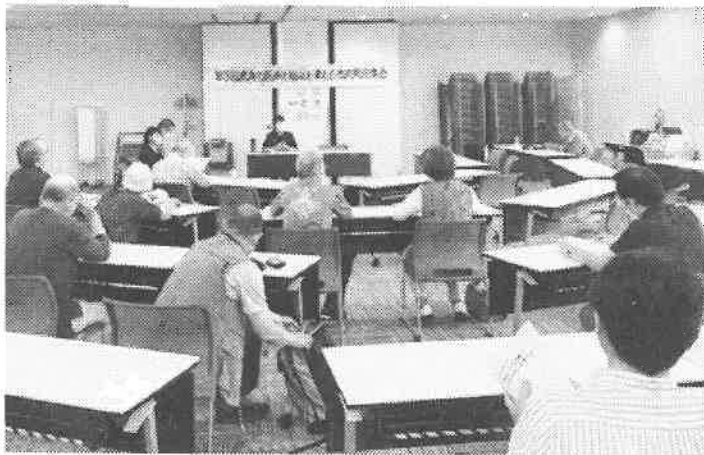
秋厚労ニュース

NO2004号
2023年7月5日
秋田県厚生連労働組合
秋田市山王5-4-2
TEL 018(864)3341
FAX 018(864)3349

近くに病院ある安心感

鹿角 市民町民集会

6月25日（日）、鹿角市文化の杜交流館コモッセで、第3回鹿角の医療と福祉を考える市民町民集会が開催されました。30人が参加し、意見交換しました。



第3回市民町民集会の様子

- ◀県・市・町・病院への「提案書」の内容▶
- ①精神科・産婦人科医師を求める7団体による協議
※7団体・・・県・市・町・病院・住民団体
 - ②「医師の働き方改革」に対応した「救急医療の体制づくり」
 - ③「総合的な診療」を軸とした医療体制の構築
 - ④受診に関する「総合的なサポート体制」の確立

「病院が遠いと家族の負担も増す」

鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会は、半年かけた話し合い「あらためて、地域・住民目線で『医師不足』を考える」をもとに、「医師不足のメカニズムと解決に向けた考え方」を報告。

今後の行動①

行政・病院へ提案書の提出と懇談

「医療のせい弱さ」は「暮らしにくさ・生きづらさ」を生み、人口減少や少子化を招き、地域の将来を左右します。さらに現在、医師の働き方改革や県内二次医療圏

の広域化により、元々医師が少ない病院では、救急医療等に影響が出る可能性も高まっています。地域医療全体を底上げ

今後の行動案として①医師不足で困った事例『住民の証言』の取り組み②行政・病院への「提案書」案、の2点を提案し、集会参加者に承認されました。

するには、行政・病院・地域住民が一緒に取り組むことが大事。市民町民の会は、県・市・町・病院への、地域医療の底上げをはかるための提案書（左上）の提出と懇談を提案しました。

考え方の柱の一つは「健康を自己責任（自己判断）」とする考え方をやめること。例えば何か不調が起きた時、自己判断を避け、一番良い対処法を「いつでも誰かに相談できる体制（総合的な診療や受診サポート体制）」が必要と考えます。

今後の行動②

医師不足で困った事例など

「住民の証言」を集める

「地元で治療でき感謝」

健康であまり病院にかからない人は、「医師不足」の実感を持ちにくいものです。市民町民の会は、「医師不足を解決するには、より多くの人が『医師不足』によって何が困るかを知り、『医師不足の解消』を求めている人が全国に増えることが重要」と考えました。医師不足で実際に困った事例を客観的に書き出し、「住民の証言」として集める

取り組みを提案しました。集会の参加者からは「病院が遠いと、本人だけでなく、送迎など家族の負担も増す」「観光客が骨折し、救急車で厚生病院へ。近くに病院がある安心感を実感した」「家族が難病で複数の科を受診。地元で治療でき感謝している」等の声が出されました。

- ◀医師不足のメカニズム（地方が医師不足になった理由）▶
- ①地方の人口は、「減った」のではなく「減らされた」こと
・・・高度経済成長期の集団就職や農産物輸入自由化による農家人口の激減が関連
 - ②日本の医療政策が、「公共性」より「採算性」重視に変わったこと
- ◀解決に向けた考え方▶
- ①日本の医師全体をさらに増やすこと
 - ②医療の「公共性」を取り戻すこと